

武蔵野文化協会ニュースレター

◇ 本会の活動 ◇

- 武蔵国分寺跡史跡指定100周年記念事業の見学会・パネルディスカッションを開催！
武蔵国分寺跡史跡指定100周年記念事業の一環として観光考古学会と共催し、昨年11月19日（土）は「武蔵国分寺跡の保存と観光活用」のパネルディスカッションを開催した。
当日、午前中に本会主催の「武蔵国分寺跡の史跡の整備状況」を高麗常任理事と中道誠先生（国分寺市学芸員）の現地解説会を実施した。限られた時間であったが、発掘調査の結果によって整備された僧寺跡の現況について、担当者の説明が行われたことは有意義であった。
午後より「国分寺市立いずみホール」を会場としてパネルディスカッションが開催された。第1部（遺跡の保存と観光）、第2部（遺跡の環境と保全問題）、第3部（武蔵国分寺跡の観光活用と展開）が開かれ、とくに第2部は加藤功専務理事が司会進行を担当し、樋渡達也理事長が「遺跡の環境と保全問題」と題して、史跡保全のあり方を環境の風景をめぐり「代償風景」を念頭に説明され「時を感じさせる様な環境」の必要性を明快に説明された。なお、第3部では坂詰秀一会長が登壇して「展望」について総括した。
午前・午後共に多数の会員が参加した。会場には武蔵野文化協会の紹介コーナーを設置し、来場の人びとに本会の活動について、『武蔵野』のバックナンバー頒布などにより広報活動を行った。

- 『武蔵野事典』刊行お礼の会、樋渡達也先生卒寿を祝う会を開催！

12月10日（土）文京区小石川後楽園で二つの記念行事を4部制でお祝いした。第1部は2時から小石川後楽園東門近くに復元された唐門見学会で樋渡先生が解説された。第2部は3時から涵徳亭広間に会場を移して、坂詰秀一会長の挨拶に始まり、関係者へ感謝状と記念品が贈呈された。主な贈呈者は雄山閣社長宮田哲男様、高額出版協力者彦由三枝子様、編集企画・執筆に尽力された20名の先生方と、桑門智重紀様・小川一義様のお二人には特別功労賞が贈られた。第3部は3時半から樋渡先生の卒寿をお祝いして、根岸茂夫副会長から先生の略歴を、次いで監事の丸山和子様から花束と記念品が贈られた。記念撮影後、第4部は4時半から懇親会が開催され6時半には盛会裡に閉会した。

◇ 学会の動向 ◇

- 第48回東京都遺跡調査・研究発表会に参加して！

本年1月22日（日）国分寺市立いずみホールにおいて、3年振りに聴衆参加型で開催された。内容は発表は8遺跡、誌上発表は1遺跡でした。公開講演は、駒澤大学名誉教授酒井清治先生が『武蔵国分寺跡の史跡指定に尽力した郷土史研究者「稲村坦元」の事績』について話された。酒井先生のお話と、当日提供された年譜・著作目録から、坦元先生が東京都文化財専門委員として活躍され、武蔵国分寺跡の史跡指定に尽力された足跡が理解できた。
一方、8遺跡の中で、特に印象に残った遺跡は、「東久留米市川岸遺跡」の中で、旧石器時代の後期旧石器時代前半期（約3.8万年前～2.8万年前）の遺物集中部が環状に分布することがわかり、環状ブロック群と呼ばれる、都内では確認事例が少ない報告に注目された。（小暮中和）

武 蔵 野 文 化 協 会

連絡先 〒362-0011 埼玉県上尾市平塚976-5（加藤方）
電話・FAX 048-775-6918 メール kt-isao@jcom.home.ne.jp
ウェブサイト <https://musashinobunka.jp>

I 2月例会 京都2泊3日—天龍寺・臨川寺・萬福寺・宝蔵院・清水寺—

○令和5年2月6日（月）京都嵯峨の天龍寺・臨川寺の庭園などを終日拝観。7日（火）午前、宇治の萬福寺・宝蔵院の鉄眼版一切経版木収蔵庫などを拝観→午後、東山の清水寺の奥ノ院・成就院の仏足石などを拝観。8日（水）午前、嵯峨の山縣有朋の庭園・無鄰菴にて了。ご案内：天龍寺阪上宗英・萬福寺田中智誠・宝蔵院盛幸道・清水寺森清顕・本会常務理事松原典明（参加申込み終了）

II 3月例会 明治維新と俳句と桜—品川区南部を巡る—

○3月25日（土）1時30分京急線鮫洲駅改札口集合、海晏寺（鮫洲聖観音道標・岩倉具視の墓・白井鳥酔の墓・春秋庵白尾の墓・北条時頼供養塔・松平春嶽の墓）→泊船寺（大井の俳諧寺）→大井公園の桜（伊達綱村蟄居の仙台藩下屋敷跡・安政の大獄の間部詮勝の鯖江藩下屋敷跡）→山内容堂墓→来福寺（梶原桜・雪中庵蓼太句碑→土佐藩下屋敷跡（浜川中学校・工事中）→土佐藩浜川砲台跡→大経寺（都指定旧跡鈴ヶ森刑場跡）→京急線大森海岸駅。ご案内：本会常務理事岸本昌良（詳細は後日葉書で通知）

III 4月例会 歴史講座「変貌する武蔵野」(I期)を語る

○4月22日（土・予定）武蔵野は、家康が入府すると新田開発が行われ新たに村落が形成される。やがて江戸市中や地方から商人や文人（僧侶）たちが多数移入して、新しい地域社会が形成される。“変貌する武蔵野”（第I期、江戸初期）が誕生する。歴史講座テーマ：「変貌する武蔵野」（第I期）根岸茂夫先生（國學院大学名誉教授）ほか。なお、“変貌する武蔵野”（第II期、幕末・明治維新編）は本会の後期事業として開催予定。（詳細は後日葉書で通知）

◇ 図書・展覧会のご案内 ◇

○坂詰秀一監修・松原典明編『近世大名の葬制と社会』。葬制・墓所造営・親族形成・習俗などを、考古学視点から近世社会を読み解く（22.11.25刊、A5判、本文332頁、3080円、雄山閣）。

○たましん歴史・美術館「東洋古陶磁展やきもの超入門編」たましんコレクションの中から中国・朝鮮・日本の古陶磁と工芸品を紹介。会期～2023.3.12、開館10:00～18:00、休館月曜・祝日、入館料100円、同時開催「小貫政之助の女たち」、問合せ042-574-1360

○町田にオープンした泰蔵歴史美術館（2020.3開館）「ミニ企画展・家臣たちの戦国時代」戦国大名の家臣たちの実態を古文書などを通して紹介。会期2023.1.11～同3.26、開館10:00～17:00、休館月曜・祝日の場合翌日、入館料大人1500円、こども500円、問合せ042-726-1177

◇ 緑の話題2点 ◇

○都は、日比谷公園の再整備計画として、2033年の開園130年を目途に、日比谷公園内の園路の舗装打ち替えによるバリアフリー化や周辺街区との回遊性強化を進める再整備計画を策定。目玉は、園東側の日比谷通り（片側四車線）をまたいで、ビルと結ぶ幅18mと幅9mの計2本のデッキを新設。これに伴う樹木を伐採する問題が報道されている。（「東京新聞」4.9.8）

○明治神宮外苑地区の再開発（超高層ビル）で事業者は、環境影響評価（アセスメント）の修正案を都に報告したが、再開発がイチョウ並木に与える影響などをめぐり紛糾した。都側は必要な手続きは終わったと。日本イコモスは、再開発で生育が懸念されているイチョウの調査について意見交換の場を設けるよう求めた。なお千本近い樹木が、伐採のおそれがあると。（「東京新聞」4.12.27）

◇ 会員の声 ◇

○平成28年2月に加藤さんに誘われて入会。自宅で陶芸教室を開いていたが、コロナ禍により現在は休室中。現在、地域の歴史や民俗に興味を持っている。特に岩槻・越谷地域の元荒川沿いには久伊豆神社が多数分布する。一方、西側には氷川神社が、東側には香取神社が対峙しており鼎立の信仰圏が形成され注目している。因みに私は香取圏に住んでいる。昨年、加藤さんと巡見の下見調査では前半4月には足立氏一族の館跡巡りとして、北は鴻巣から南は足立区まで約60キロを2回に分けて車で走った。後半9月には比企能員の菩提寺金剛寺や畠山重忠ゆかりの菅谷館跡を車で訪ねた。春夏2回のバスツアー下見会に同道して、少しでも会のお役に立てたと思っています。今後は、“目で見える武蔵野”写真展などを希望しています。（さいたま市岩槻区：金子稔）

※次号「文協ニュースレター」第7号は8月刊行予定。「会員の声」欄は本会へ入会の動機、思い出に残るフィードバック、今後希望する事業、研究成果などを200字程度で。投稿者は事務局へ、次回原稿〆切7月下旬厳守。

※本紙記事の制作は、小暮中和・島田正人両氏による提供が大きい。

（「武蔵野文化協会ニュースレター」第6号：令和5年2月1日発行）